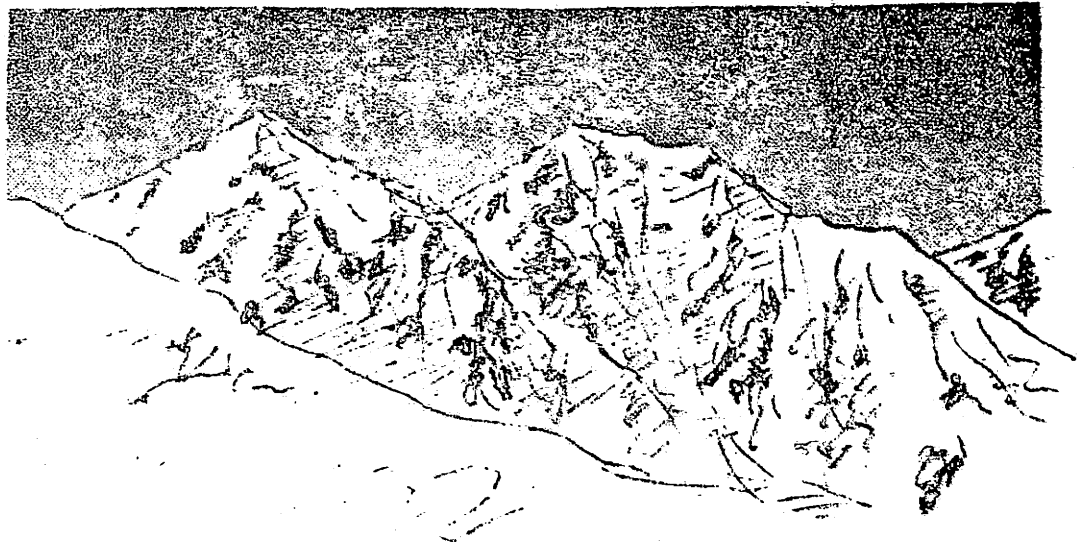


1986
冬山合宿
報告書
+ プレ冬・個人山行



信州大学山岳会 (SAC)

Contents

Page

1. フォ冬合宿	1
2. 冬山合宿	
a. 総括	2
b. 行動表	3
c. 高度表	4
d. 行動記録	6
e. 係の反省	
Essen	11
装備	12
会計	14
気象	15
f. 個人の反省	19
g. 作文集	24
3. 個人山行	27

表紙

～八方尾根から、白馬三山を眺めて。～

白馬は我々にとって Golden Week 合宿で馴染み深い所だ。また、安曇平からも、好天の折など遙か彼方に、その秀麗な山容を認める事が出来る。

大糸線にゆられて行く時、我々の山心をかきたてる。そんな山である。

なんでこんな事書いたかって？ そりゃまた、おメーページが空いちやっただよ。シラフでこんなこと書ける訳ネタロ。

(文責 T.N)

↑ 12月冬合宿 (11/29 ~ 12/1)

11/29

- 8:40 ⊕ 下北の山頂
- 9:20 ⊕ 下北の山頂
- 10:19 ⊕ 下北の山頂
- 12:00 ⊕ 天狗原
- 13:05 ⊕ T.S 設営終了

11/30

- 7:00 ⊕ T.S 発
- 8:00 ⊕ 大地. 下北設営
- 8:30 ⊕ 大地発
- 10:30 ⊕ 小連華岳
- 12:45 ⊕ 白馬岳山頂
- 14:00 ⊕ T.S

12/1

- 6:40 ⊕ T.S 発
- 7:40 ⊕ 天狗原
- 8:30 ⊕ 林道

2. 冬山合宿 (12/21 ~ 25)

冬山総括

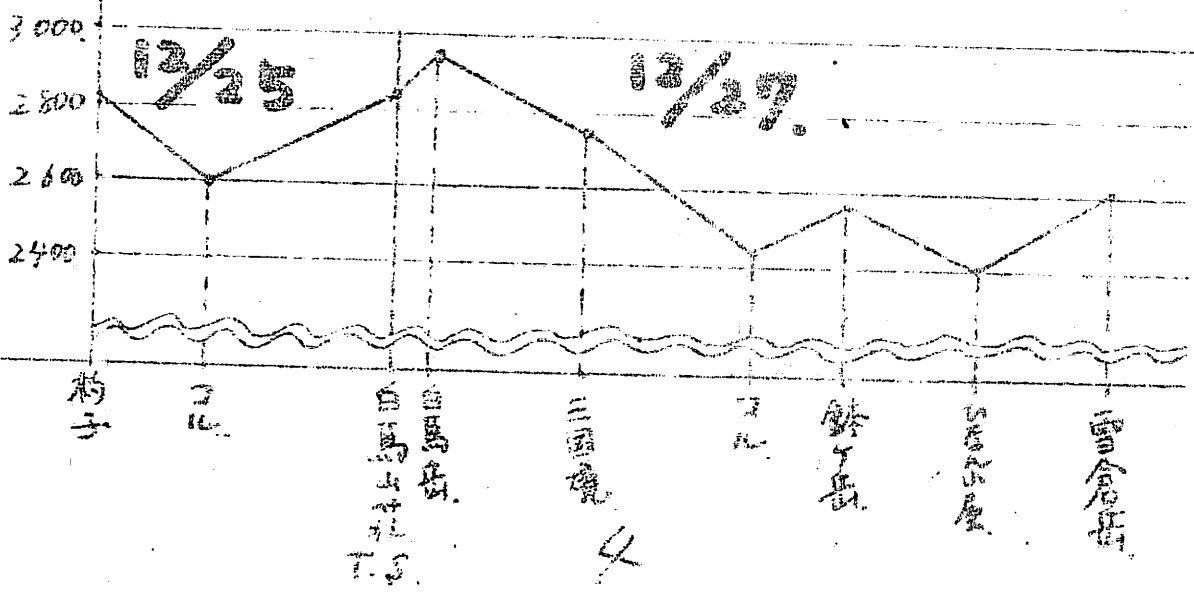
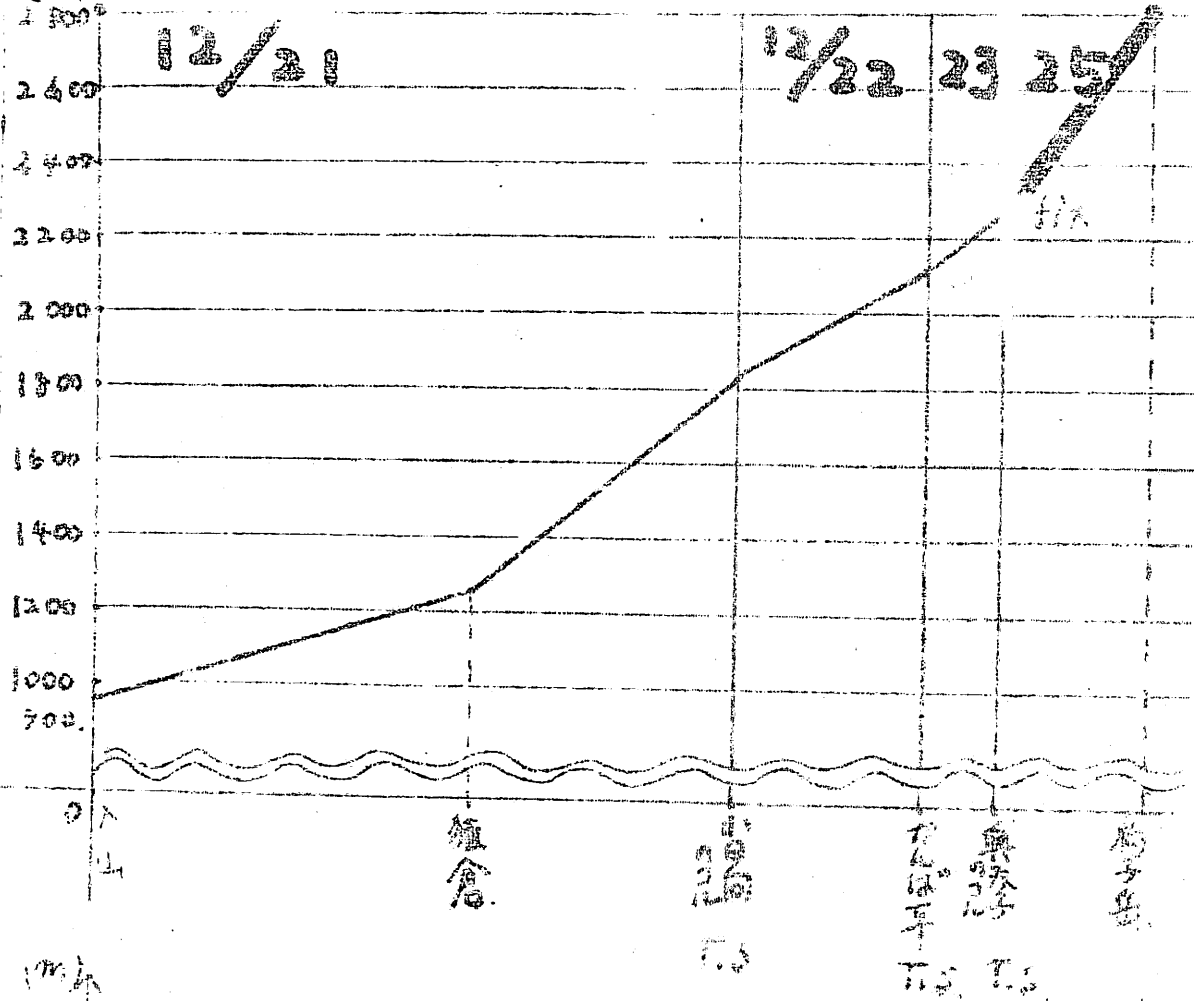
今回の冬合宿は、残念なが、日程不足で
エスケープをせし、下山する事になった。これは
悪天候のため、日数が足りなかったといふことが、
直接の原因であるが、間接的な原因として
「各自の冬山における目標のしなやかさ」
をいふことも、忘れてはならない。合宿の反省
でも出たが、各自の「登ろう、目的を達成する」と
いう意識。低さが、結果に表れているように
思う。体調不良、装備、Esson等における不注意
不注意等が、かなりパーティ内の雰囲気等に
影響を与えたのではないが、そのためにパーティ全体の
行動力の低下につながった面もあるように思われる。
昨年度から言われているように、各自のちよとした、
なにげない、悪言、行動等、すべてが合宿の成功に
かかわりあっていることを忘れていないように思う。

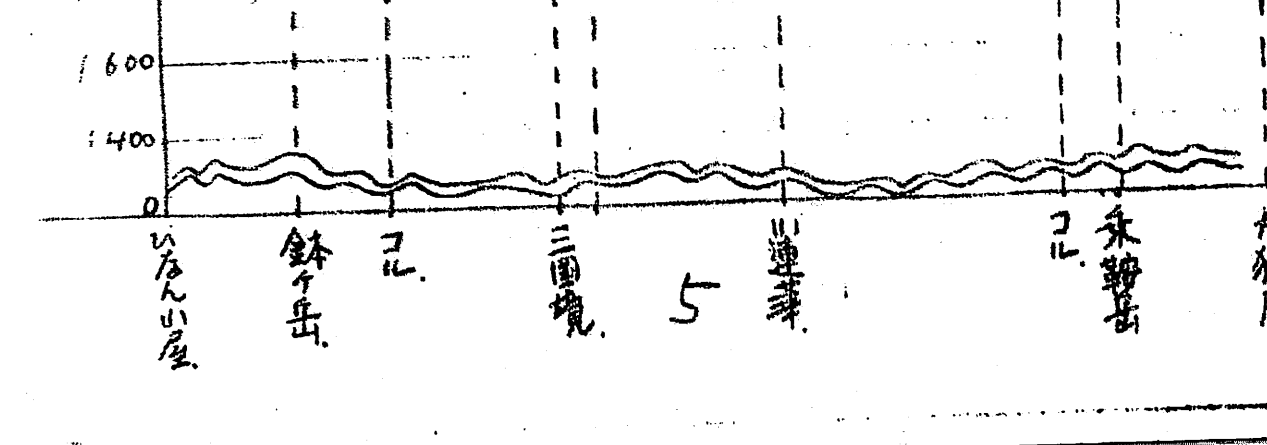
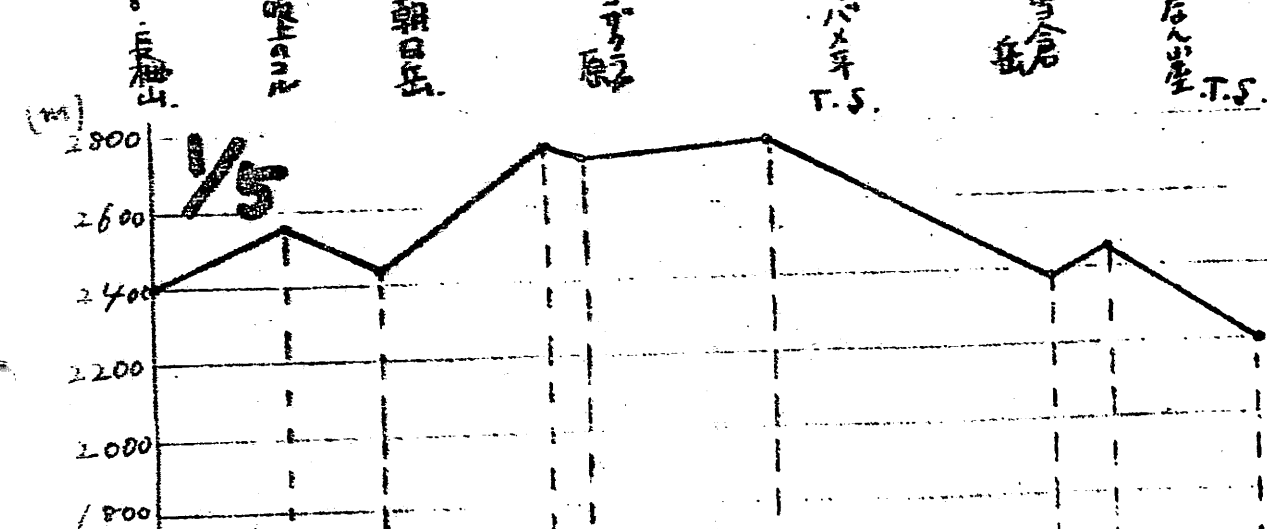
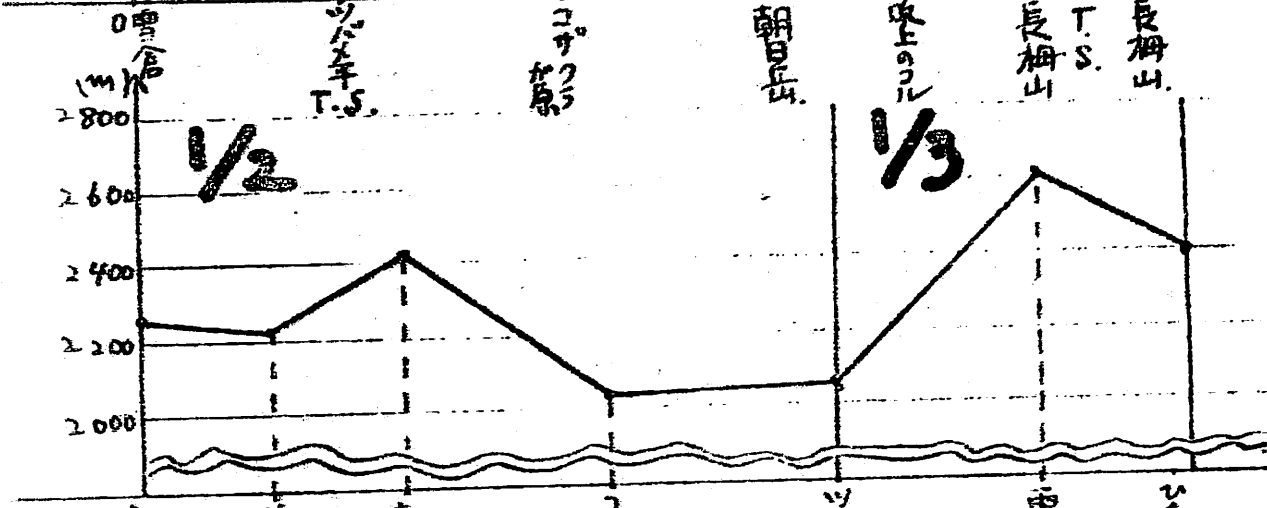
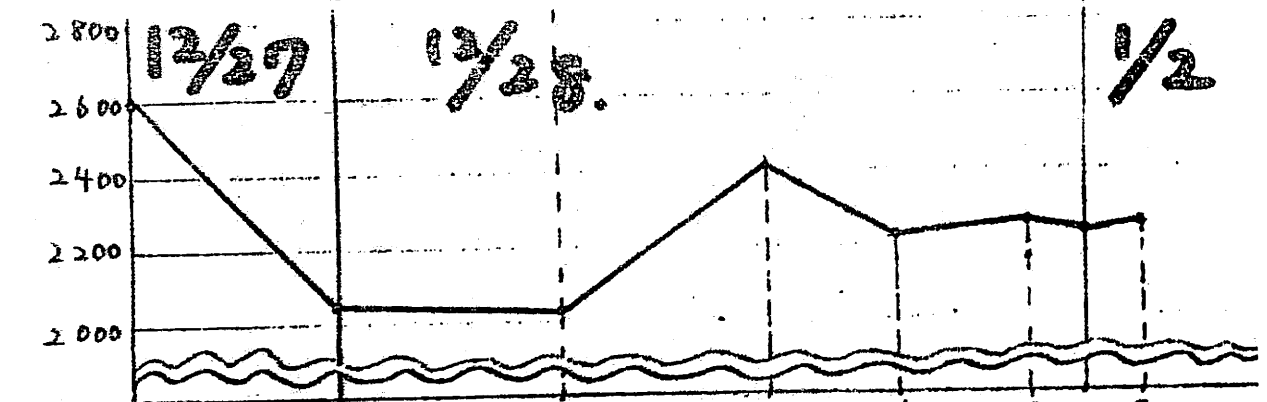
この反省を繰り返すことなく、メンバー全員
自分の山に対する意識について、もっと深く考え、
山行をたて、実践しなければ、これからも
同じことのくり返しになってしまう。

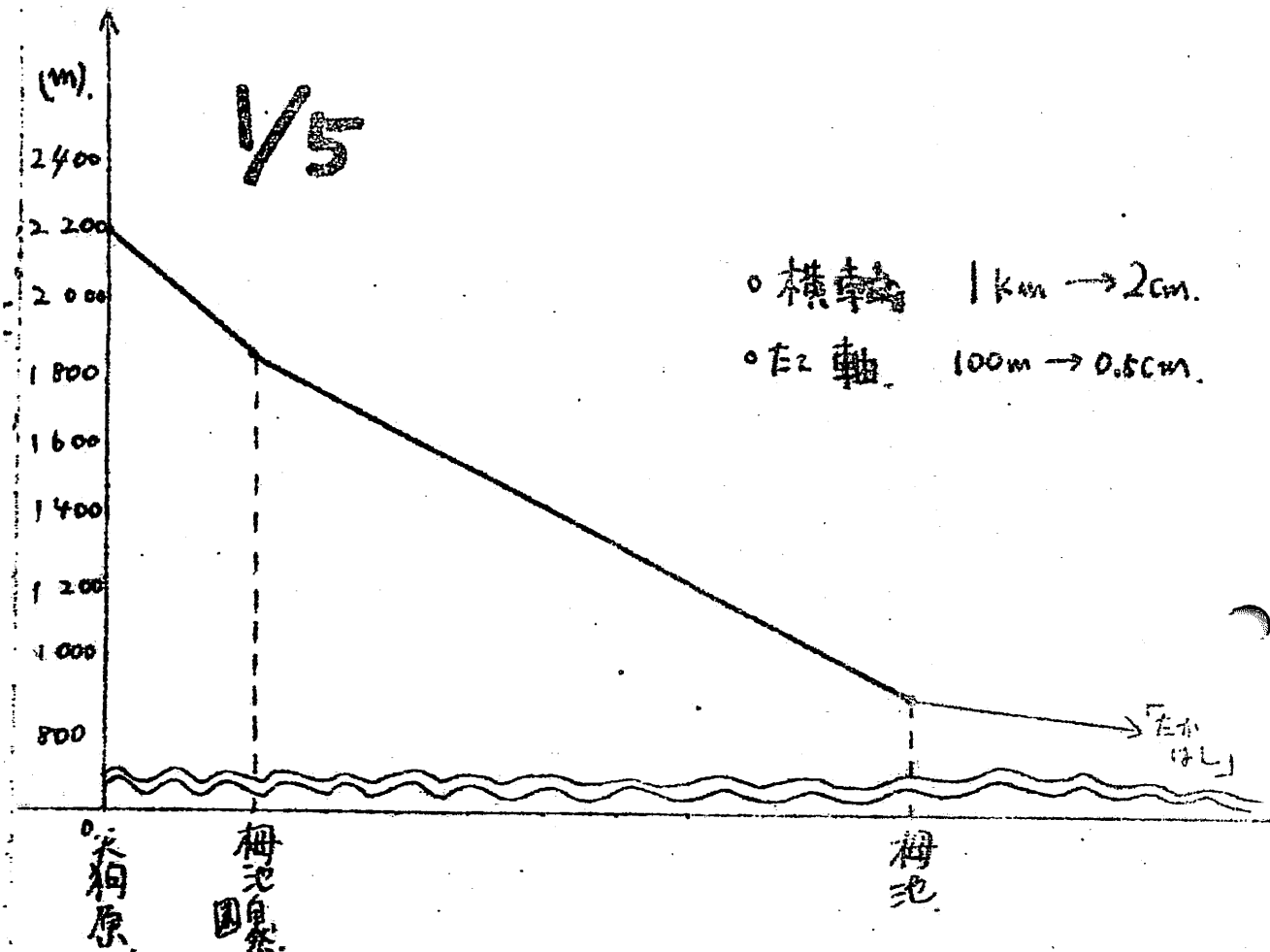
各自も、自分に厳しくなれ!

齋藤 道弘

高津表







d. 行動記録

13/1

白馬駅からタクシーで入山

- 7:30 ① タクシー下車
- 8:40 ○ 猿倉
- 9:40 猿倉台地
- 13:30 ◎ 小日初のゴル TS

入山時、先行パーティー有り。猿倉を越えて林道から夏ノ登山道と分かれるまでツボ足歩行。夏道に入りワカンをつける。小日初のゴルへの急登はダブルストックで登る。雪質はヒザまでもぐり程度。猿倉台地の設営可能と思われる。

12/22

A1st 隊 : L 森, 水谷, 飛田, 中村, 内田, 作道
先行してラッセル。装備は、個装工器具各1個

6:50 ⊗ TS
12:00 樺平
13:00 テ木^o地
14:00 樺平

B1st 隊 : L 角谷, 三野, 安田, 瀬川, 豊田, 小野, 下平
ラッセルが力尽きて残りの装備を荷上げ

7:55 ⊗ TS
8:25 A1st 隊に合流
8:40 テ木^o地 (1900m付近)
9:45 小日和の川
10:40 ⊗ TS テ木^o地 (2800m付近)
12:10 樺平

以下A1st 隊と共に行動する

樺平まで用事終了のラッセルでA1st 隊はA^o スが上がりず
樺平でB1st 隊が追いつきテ木^oを回収に行く。
樺平より上は天候が悪いため、テ木^o隊もFIX隊も出ない

12/23

FIX 隊 L 角谷 三野 豊田

6:45 ○ TS
7:40 奥双子の川
1:00 ⊗ FIXを4本張る
ジャンクションにて 50m x 1, 40m x 1
ジャンクションの上部 20m x 1, 50m x 1
12:40 奥双子の川 TS

FIXは雪に2本で杓子頂上まで上りきり、ラッセルは深
い雪のため

荷上げ隊 L 森, 水谷, 中村, 瀬川, 小野, 飛田, 中田, 内田, 作道

7:40 ○ TS
8:30 奥双子の川
8:45 樺平
9:30 奥双子の川

ダブル木 力で荷上げをする。Eの木のレスがあるので楽だった。
 その後！ 双子TSよりテホ隊を先！
 テホ隊 L 森 水谷 瀬川 小野 飛田 中村
 10:35 ① 奥双子のコーン
 12:30 シャンパンを先日のテホ地
 13:15 奥双子のコーン
 奥双子のコーンより杓子山頂の間はテホサトに通り所は岩が去

12/24

L 角谷 森 水谷 三野 豊田 瀬川 中村 飛田 小野
 9人で ダンバコ8コをテホへ行く。

10:05 ② TS
 12:00 J.P.の少し先のテホ地
 13:15 TS

朝から雪で視界が悪く特機。1体5くして上級法だけ
 でテホを上げる。テホ地は1/3のテホ地と同じ。
 12/23に5コダン箱をテホしていたので計13コダン箱をテホ
 したことになる

12/25

フック隊 L 水谷 三野
 ホッカ隊 L 角谷 砂りのメンバー

9:30 ① TS
 9:25 ② テホ地
 10:35 ③ 杓子岳山頂

全員でTSを上げ。ホッカ隊がフック隊通過後、フック
 隊が下2コフックを回収し、ホッカ隊を先行して上部
 に5コ2コフックを張る。J.P.より上はE.X.5本ほど
 とハたす。1とナリがシリシアをこぼした。
 杓子山頂で隊を再編する。先発隊は白馬山山頂へ
 上り、後隊はテホの回収を行う

行先隊 L 水谷 三野 小野 作道 下米 内田
 11:00 ④ 杓子山頂

12:00 白馬山頂 テホを回収し行く
 12:40 復発隊の合流 復発隊の装備の準備
 2:30 白馬山頂

復発隊 L 角登 森 飛 三 村 瀬川 宮田 豊田
 10:45 ㊦ 杓子岳山頂 予備
 11:30 J.P 麓の予備地 予備回収
 12:00 ㊦ 杓子岳山頂
 13:40 米登隊と合流 予備を回収にい
 14:40 杓子岳山頂 予備回収
 16:10 白鳥岳山荘

アイスクス通過は最初のスネが岩まじりのルートとなり少し難しい
 杓子岳からは雪面がクラストし歩きやすいが強い風と雪で視界が
 悪かった。

12/6 ㊦
 トリザードが吹き荒れて 功殿

12/7

① TS
 10:00 三国境
 11:35 ㊦ 避難小屋
 12:35 雪倉岳
 14:05 ㊦ ツバメ平

この日は1日中アイゼンだった。
 白鳥の山頂付近は少し雪房が崩壊していた。雪質は
 古くおねクラストしていてアイゼンが良くさいた。

12/8

㊦ TS
 9:00 ㊦ 前日岳前のコル
 11:00 ㊦ 朝日岳
 12:25 ㊦ 吹上のコル
 13:00 ㊦ 長母山

TSをワカンで出発する。赤男山は西側の木付林帯
 をトランスする。朝日岳の登りは雪が深く苦労する。
 朝日岳の下りは、所々クラストしていて、アイゼンもしくは
 ワッパアイゼンで下る。吹上のコルより北は全量
 ワッパアイゼンにする。長母山付近では吹雪が来て
 ホワイトアウトになり、早々に天場を見つけた。設置する。

(湖 龍巻の2 下 1235 (12))

12/30

7時外7時のため 殺

12/31

7時外7時のため 殺

1/1

7時外7時のため 殺
(楯池へ エキップ 送)

1/2

8:30	◎	T.S. 死
9:45	○	朝日 頂上付近
11:50	◎	燕平 T.S.

本と 7時外7時 送られた。
朝日の登り・下りは カステル・ア・デ・シエラが
真上から。下りは 樹林帯を 目撃して。3。
赤鬼のトラバスは 自らのトラスと 他に
トラスが 残っていた。

1/3

7:30	◎ (雨)	T.S. 死
8:30	◎	主峰へ 戻、E 前
10:15	◎	雪倉 避難小屋

本と 下り 送られた。
風が かなり 強く、風速 35m くらい あり、
昨夜の雨で 雪倉 岳の 登りは 特に かなり
凍った。燕平の トラス 東へ トラバス
雪崩の 恐れ あり。
避難小屋で 研習、雪山岳 神の人達と 話し
した。

1/4

7:45 ○ 小屋焼
9:05 ○ 小屋着

アゼシを以て出たが、本外アゼシと
強風で小屋へではかえり、風は昨日
より弱くなった。殺線がチビと赤い
ので「トアインテング」が難しい。

1/5

7:20 小屋焼
8:25 三田境
10:30 自由集積
12:40 E/E
14:00 バス停

自由集積を越えて林道に出る前までアゼシ
が、林道に出てからアゼシでワカン。
このアゼシは、視野が狭いので
12:30 目前に注意してアゼシでワカン。
この日は、視界も良く、アゼシも安定してワカン。
自由集積への、大池へのワカン、ワカン。

e. 係の反省

Essen

量

量的には十分であつたと思つた。
アゼシの味もバリエーションも一味、
アゼシの味もバリエーションも一味、
アゼシの味もバリエーションも一味、

音

普通のゼスとオレシ等の包装と味との
量の差とが大きい。実動日のゼスと味との
量は、アゼシの味もバリエーションも一味、
アゼシの味もバリエーションも一味、

夜

乾燥熱、アゼシが好都合だ。今後積極的にアゼシ
であつた。アゼシの量もアゼシとしておかげがたのも失敗
であつた。

・ローソク消費量

・沈んでなどあり、一定していなかったが、 $\frac{1}{5}$ 本/日消費していた。

・メタ消費量

・1日1箱(1.5本をアス一台につき使用)の予定であったが、係の意向を充分に行きわたらせなかったため、70レートの不足が良く見られた。1.5本使用事の方が確実に点火し、火カも得られるようだ。

・その他

- ・装備装の中身で出し入れの多いものは、防水に留意しないとイケなかった(ラジオ、天気図用紙)
- ・ツェルトの袋が小さすぎ不便だった
- ・Fixは若干少なかったが、重量のことを考えれば廃棄できるものを加えておけば良いだろう。
- ・雪袋の他に松葉袋を使用したかなかなか調子が良かった。
- ・除雪具は今回の山行でその重要性を再認識したが、とくに鉄スコは有効で、我々のような大部隊では、重量はそれほど気にせずとも良いかもしれない。しかし、本数を増やすのは利口とは云えない。

・全体に準備の甘さから、余計なものをもちたりし、隊の力に影響をおよぼしてしまつた。多すぎず少なすぎずというバランスに最終の注意をもってのぞむべきと痛感した。

(中村)

会計報告

・収入

部員より $14,200 \times 13 = 184,600$
不参加部員より $12,580 \times 2 = 25,160$
OBカンパ $20,000$
月末残金 921

計 $230,681$ 円

・支出

E_S費 $146,520$ (1人1日 465円)
E_子費 $40,216$ (1人 2812円)
交通費 $40,510$ (電車、タクシー)
酒代 $3,400$ (ビール)

計 $230,646$ 円

残金: $230,681 - 230,646 = 35$ 円。

21日間の合宿には2日は1人当りの出費が少なかった。理由としては、E_S費が安かったことと、OBからのカンパが20,000円あったことである。E_S費は、OBから乾燥サケ、ホタテ、鳥肉、そうめん丸をもらい、ためたバケツに便、7枚か、1枚かおろす。また、親不知まで行かされたので交通費も安く77.2113。

(記. 安田)

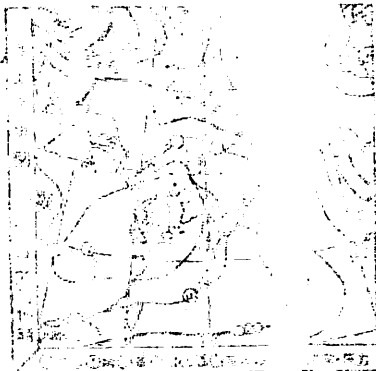
冬山今宿中
12月21日

お天気

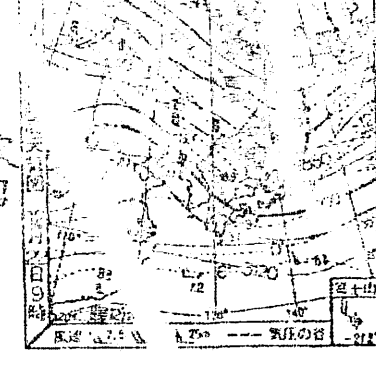
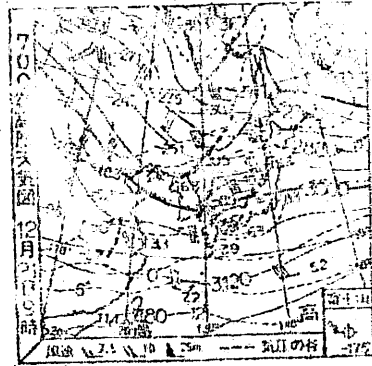
水気
12月



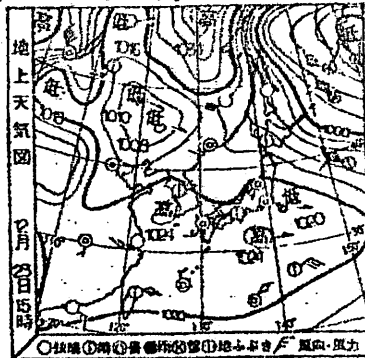
山日
〜奥双子のコル
〜快晴
大気圧の谷に
北日接し
中下は曇り
午後吹雪
〜後雪
〜



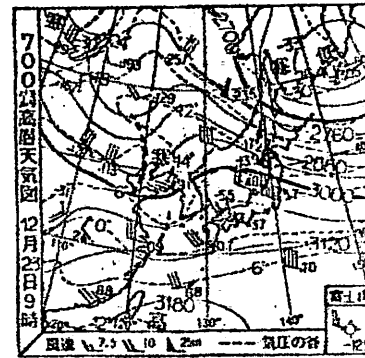
奥双子のコル
〜快晴
大気圧の谷に
北日接し
中下は曇り
午後吹雪
〜後雪
〜



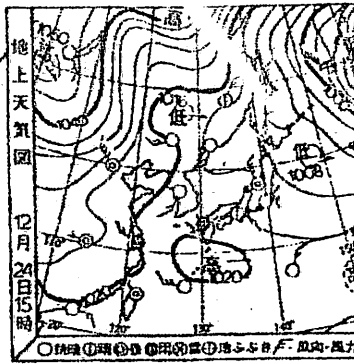
12月23日



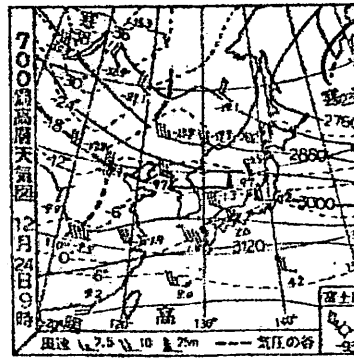
〜快晴
〜奥双子のコル
〜快晴
大気圧の峰に
北日接し
中下は曇り
午後吹雪
〜後雪
〜



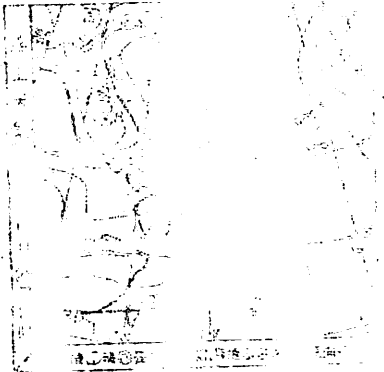
12月24日



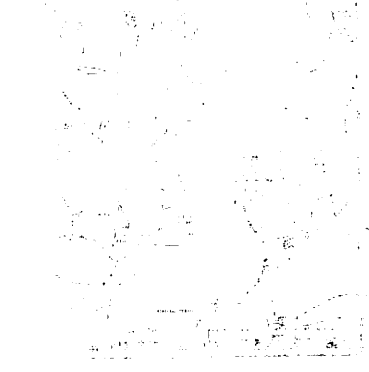
奥双子のコル
〜快晴
〜奥双子のコル
〜快晴
大気圧の谷に
北日接し
中下は曇り
午後吹雪
〜後雪
〜



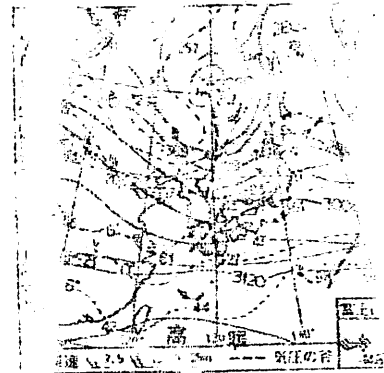
15



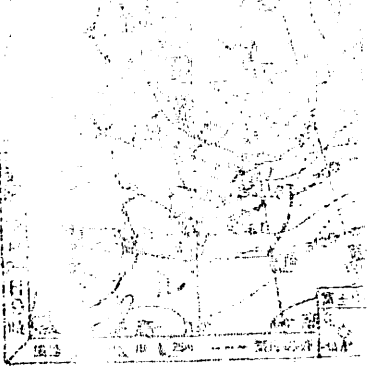
大気
の
変化
を
示す



大気
の
変化
を
示す

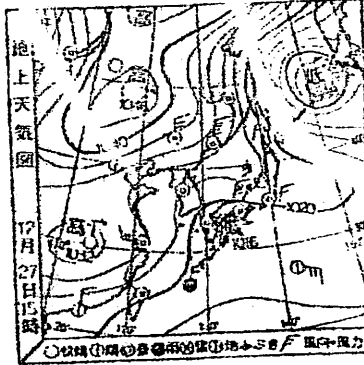


大気
の
変化
を
示す



大気
の
変化
を
示す

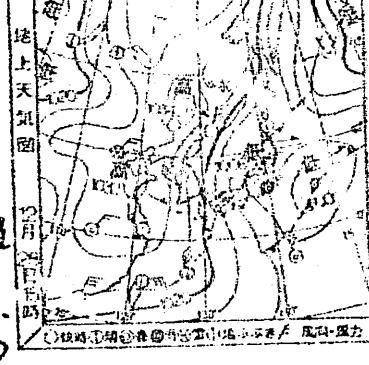
12月27日



白馬山頂
〜カマキ平
晴のち曇り
(風つよし)

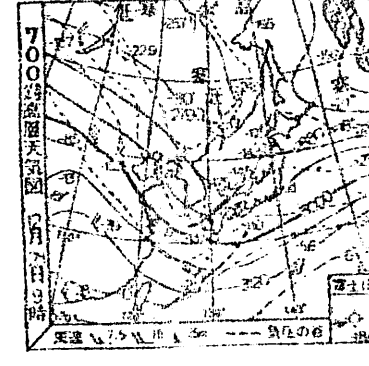
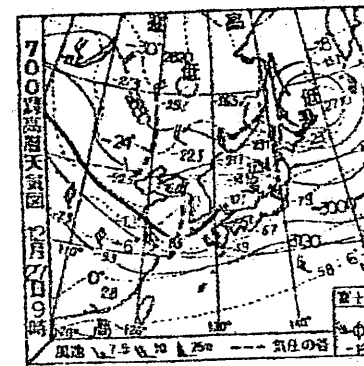
この付近を気
圧の谷が通過
中で、日本海
側山岳では
強風のため
あれた。

12月28日

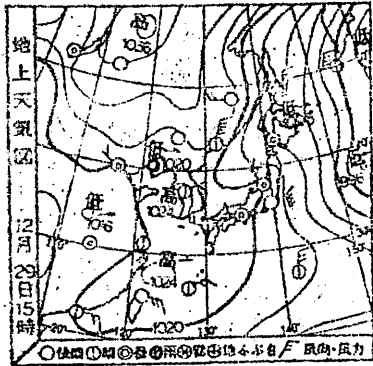


ツバメ平〜
長梅山
曇のち吹雪

日本海には低気
圧があり一時的
に曇り好天とな
る。しかしトラフの
通過で寒気が
流れ込んできて
山は大荒れの天
気となった。

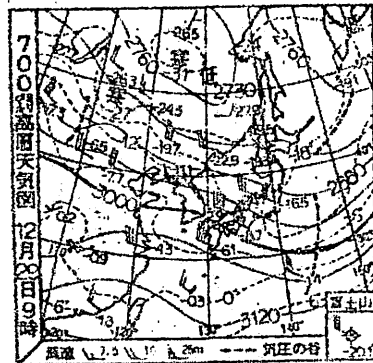


12月29日

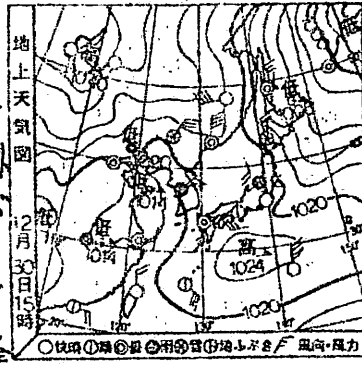


・長柵山
・チンデン
・吹雪・大雪

長柵山以外では天気よかったです。みんな全体的に気圧の峰におおゆめよい気候だったみたい。はせな... 今日天は、頂までうり朝食の前より徐雪。

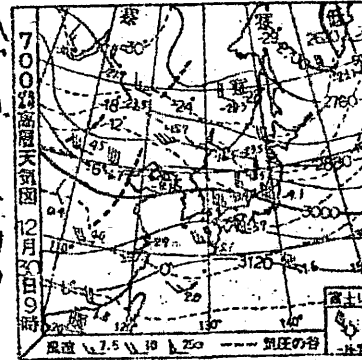


12月30日

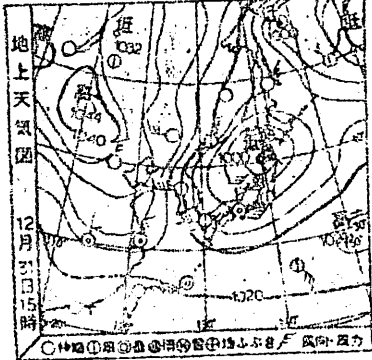


・長柵山
・チンデン
・吹雪

中国北部から気圧の谷が飛達しなから日本付近に接近しており、全体的に雲が多。山では大荒れの天気となりました。でも天気図の上ではいいはずなのに...?

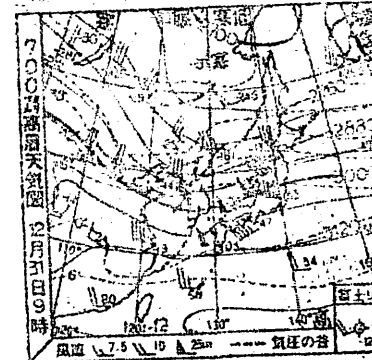


12月31日



・長柵山
・チンデン
・吹雪

日本海に低気圧あり、北日本、日本海側を中心に大荒れの天気となります。

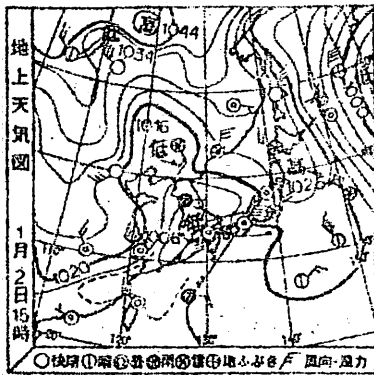


87 1月1日 お正月
A HAPPY NEW YEAR.

・長柵山に於いて、ちんてん
・天気は吹雪・大雪

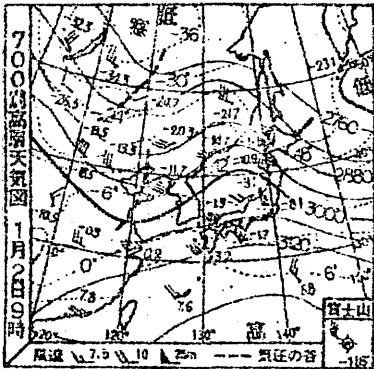
みなさん天気が我々に与えたこの日を覚えていいますか？今日は日本の上空を気圧の谷が通れ、朝から荒れ模様となりました。来年もこのように...！合宿でありますように...！山の神様には、昼めしをささげ、お祈りをしよう。

1月2日

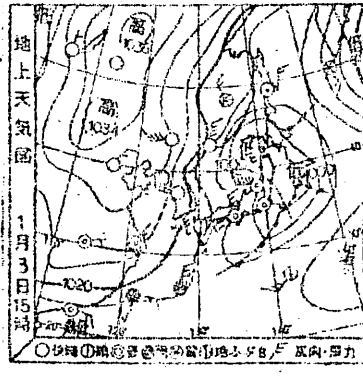


・長柄山
～ツバメ平
・吹雪のら雪

はじめ気圧の
山争におおわ
れて天気は
よかつたが
南岸性低気
圧のせいで
夜半から雨
はじまり
夜とほつた

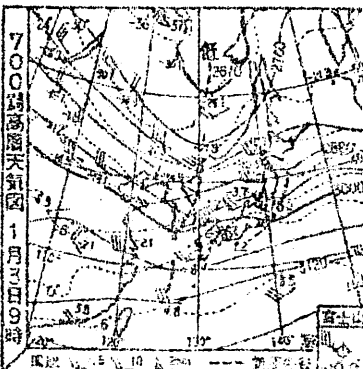


1月3日

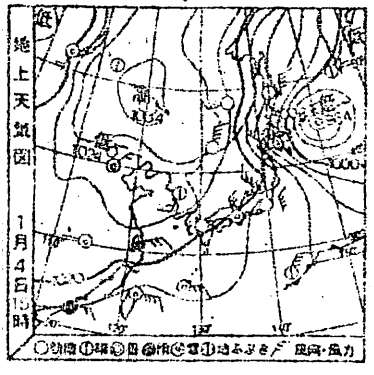


・ツバメ平～
雪倉屋難山屋
・雨のら吹雪
（強風）

温暖前線の通カ
下山地でも
雨は降り一時的
に擬以好天とな
つたが、寒冷前
線の接近とともに
もう吹雪となり
輪島では風
速60ノットを記
録している。

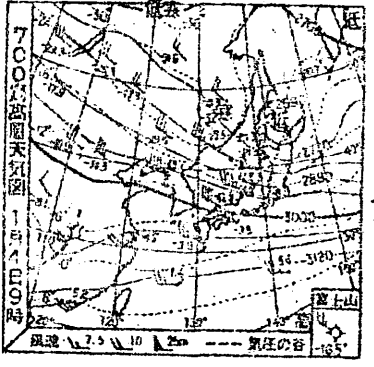


1月4日

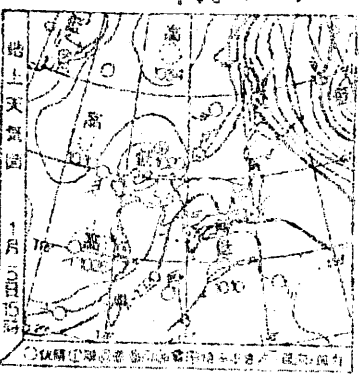


・雪倉小屋
ちんでん
・吹雪

日本付近は
気圧の谷に
おおわれ
沿海州から
北日本にか
けて強い寒
気が流れ込
んでいます
この日は日本
海側中心に
大荒れの天
気です。

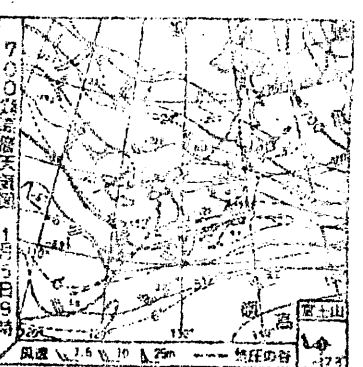


1月5日



・雪倉小屋
～下山
高曇り

気圧の谷は東へ抜
け日本海側の平
におおわれてい
ます
は、次の高気圧の
おとで、お
り、明日のわ
たし海側中心
に荒れに
なつた
700hPaの
おとで、お
り、明日のわ
たし海側中心
に荒れに
なつた



大. 個人の反省!

天候が良かった上に長期間の合宿で、体力的より精神的にシビアな合宿だった。厳しい環境に於て個人というものを否が赤いにも考えさせられた。厳しい中でこそ、個人(個性と言っても良いが)が強烈に打ち出されるものだ。こういうことを考えざるを得なかったという意味で、今回の合宿は有意義だったと思う。

(牙不)

やと冬山合宿も終わりました。俺にとっても初めての疲労もともたした冬山に初めて行った。いろいろ難しい判断力や読図力、体力など要求された山行だったと思えます。一所に4日周も閉じ込められたり、雨の嵐猛吹雪の行動日とはみんなあらゆる意味で、山の総合力が養われたと思えます。この経験を主とし、今年(元)の山岳会の中での山行に生かして行きます。(元)水谷

三日目にかぜで、テポを違められながら、たのが
最大の反省点だ。最近私合宿で体調
を崩しているのをききつけたのが。

全体にきになったのは、みんな感情的になつて
ことも多かったと思う。(ちろん、自分も反省している)
長い合宿生活では足りないこともしれないが、
もと、自分にきいくなるなければいけないと思う。

(三頁)

今回の合宿は最初から最後までかぜに悩まされた山行だった。海
にむかへて自己管理ができていないと、またよく痛かったことある。アゼン
アゼンの調子も悪く、又それに対して無防備であったりと、あと準備の
準備段階から真剣にとりかむべきであると反省している。2000mの
山行を通じて合宿で学んだ自分の弱さを補うにはどうするか

(四頁)

今回の合宿は成功すると思えたところ、突然と不安
さない。杓子を越えて、つばめ峠までは突進もよく、
動いてきたが、朝日岳を越える日は、寒気が伝わるような
ように体が動かなくなりました。やはりアゼンが原因だ
ったためなのだが、アゼンも在りいん、寒気でアゼン
痛感した。4日に小屋を出たときは、はまり山と現在地
はまったくあからなかつたし、小屋にもアゼンもアゼン
はよいのかもあからなく、ついでにだけだした、本日は34日
であり、リーダー部員となるのだから、このようなことがなく、
確な現在地の確認と判断力を身につけなければなら
ないと思う。

入山前の合宿に対する意識が低かったため、
心の準備も装備の準備もいっかげんなまよ入山
してしまつたのが、最大の反省点である。みんなが
体調悪く、残りの元気なやつらがその分動けなけ
れば、隊全体の行動力が低下してしまうのは当然
なのに、入山時のいっかげんさが尾をひく。心の中で
汗をこぼしていた自分になぜない。行動中ルト
スライディングやマツピングを意欲的にできなかつた
(やらなかつた)のも、2年生同志のよいあいや上級生への
あまえがけでも、原因は同じだった。

(記瀬川)

15日にもおよぶ長期の山行で、反省すべき点は、
あまりにも多い。そのなかでも最も重大と思われる点
は、3つある。1つ、自分が身体管理を十分に行
えないこと。これは、個人が苦しいだけでなく、隊に
およぼす影響が大であり、自覚していこうと思う。
2つ、心理的な準備が十分でなく、それが、本来
緻密に行われるべき準備をないがしろにしていた事。
また山行中も、Essenなどで怠慢な作業をして
しまった。3に2年生同志でなれあってしまい、あえて
自分を厳しい条件の下におこうとせず、他のMember
と比べ甘かった点などであったろう。

以上の反省点を肝に銘じ、来年度より、大きく、
ステップアップしたい。

中村たかし。

今回の合宿では、自然の厳しさを痛切に感じ、自分の
実力不足をあらためて思いし、た。前半をいこう
何でも積極的にやれたと思うが、後半になると、どうも
逃げ腰になっていたように思う。

また、今回もマツを風に飛ばされてしまい、フシ冬
の反省が生きていたのか、たようだ。またアセシク
ができておらず、ダブルヤッケやスパッツを破いて
しまった。

技術的にも精神的にも弱い部分が出てしまった
合宿だったか、これを良い経験として、これからは
が人休んでいきたいと思ひます。

by 下平

今回の合宿は僕の今までの山行の中で一番長い16日間
もあつたことあり反省すべき点もたくさんあつた。まず第一に
ことあるうに山でカセをいっていたことだ。山行前からス
ニクをいかり少し気を使っていたのだから前日くらいからセキ
が出はじめ、合宿の前半はすべセキとカセによる体か低下に
なやされた。夏合宿にも似たようなこととしてあり今回で二度目
であつたのでこの点については本当にこれから気をつけたいと思ふ。
あと合宿中2セアな状態になると前にかいて歩くだけになつてし
ま、地図とコンパスで地形を確かめることがほとんどできなかつた。
自分の無力さを知り、これからそれ自分でも思うことができように
したいと思ふ。また冬でも雨は降るものだからということもわかつ、自分の
個装などもしっかり点検して入山すべきだなと思つた。あとアセシ
などで注意された所はこれからなおして行くようにしたいと
思つた。

内田 健一

乾燥野菜入り、飼料の準備などを後ずかし
後ずかしにしていた。最後にバタバタと用意し
たのでカゼをひいた。引いてカゼを
ひいたが合宿へ入るようになっていた。
引いて、体力的な余裕がないのでアセン
ション、歩行に長ずまかせうろく歩いていた。
仕事も進んでくずず、精神的にも余裕がな
く行っていた。
今年も僕も2年生になる。こゝではだ。
(作道)

今回は16日間と長く、前半体力的に十分だったけれど、後半バタバタはめ
1年生のサポートなど思っているはず、持たず、スタミナの不足を感じた。
引いて、ルートファインディング、マッピングの裏力不足、高層気象の勉強不足
を痛切に感じた。常にリーダーの気持ちになって合宿をやる
こともできず、上級生にたのびる部分が多分にあると思う。
精神的、体力的に、もっと成長をしなければならぬと感じた。
(飛田)

9. 作文集

12月25日、奥羽子の北 ~ 白馬山荘

Fixを張り、テボもかなり上げて、いよいよ杓子越えて白馬山荘へ向う日が来た。杓子を越せば後は本荘がなまじり思ひ心はうまうましていた。3時間余りで山頂に着き、丸からテボ回収に行き白馬山荘へ向う。いつのまにかかえって来てふふいてきた。足はだんたん重くなり、足を前に出すことしか考えていなかった。再び杓子にテボ回収に戻るときには、白馬山荘まで足が動くかどうか疑問に思ってしまった。しかし足を動かさな。ここにはテント・物件に行けない。やがて山荘に着くと合宿の半分は終末ような侵かして、とん太に苦痛だったとも思おながたし、これぞ日本海に抜かれると思ひ、心はうまうましていた。

豊田 洗太郎

エッセイの序で目が覚めた。フーン音が
残っている。おぼろげと意識はくわ
れぼんちと外へ出る。オーッ。テボが
重い。スゴい日曜日。おぼろげだ。テボ
が重いの。おぼろげだ。テボ。全然見
つかない。100以上下にある。テボへ戻り。
テボが分らない。オーッ。テボの音が
少し出ている。動いた。

本荘の音。この時、テボが分らない。テボ
が重いの。おぼろげだ。テボが重いの。おぼろげだ。

(作意)

12月29日 AM 4:45. エッセン当た、たので目を覚まし
エッセンの準備を始める。なんともなく、朝のせいか テントの
中が狭いように感じた。吹き出しを閉じて見ると真
白で何も見えない。テントの入り口が雪で埋まっていたの
だ。僕はテントから外に出て、埋めたナベと ナベアケをさが
したがナベアケが見つからなかった。しょうがないので
エッセンを始めると雪が暖められて下へさがりテントを
押しつぶそうとしている。ホールはSの字に曲ってしま
った。僕はナベを両手でつかんで座、こいたが、背中
をテントに押され腰が痛くてしょうがない。タカシさんは
「テントがつぶれるのは時間の問題だ。」などといってい
る。水谷さんが、装備テントを起して除雪すべくテ
ントの外に出た。しばらくして、「オー、装備テントはエッ
センテントの右側かー。左側かー。」という声が聞こえ
た。何を言っている人かと思つたら、どうやら装備テントは
雪に埋まるところにも見あたらないらしい。「ケケ、装備テ
ントはつぶれてしまったの左側か。」などと思つた。それでそ
れ装備テントは雪の中にしかり立っていた。「いやー。みんな
生きて戻らな。」と胸を奪ってお引た。いやー。雪山は
やっぱり怖いなー。

by 下平.

ツバヤ平の悲劇

今が必死の思いで目指してきた怒濤の日本海にフルリと背を
向け、我々は来た時と同じ道をたどつた。アークギルバタはむ
すむ相地へと向かっていた。我々の心はトラフと寒気団の重なった
ような寒い風が吹きぬけていた。こんな悲劇のヒーローと化した
我々に次なる試練が待ち受けていたのである。

昭和62年1月3日早朝、私は異常な不快感に目覚めた。
おこしたことは、こい打は何回かあることなの？別リに珍らしく
なかつたが、この日の朝は違っていた。前日一生懸命乾かした
シウアバベツリと体にくっついているのである。こいは一瞬と飛
び起きるとテントの中で雨が降っている？はたはた。こい打

ハンパな水着ではな。ボートといる私と臍物シラフの中
から小野が笑っていた。愚かにも後はシラフカバーを
したのだ。朝メシができた。山盛りの天をばである。みん
なやけがみに食っている。森さんは「オレはジャッキー
とジョンとわけのわからぬことを言いつつからガッツンガ
ッツン食っている。そして冬山では絶対使えないとガ
ッツンの底に封印してあったカッパを取り出し、無言で着る。

ツバメの雨は冷たい。雨が100倍重くなる。た
びに「エイヤ」といって我々はカヌーの中の雪倉岳
へと向った。この後、さらに困難な事態が持ち受
けられているとたぬが予想したであろうの……
みんはおそろしく感じていたに違いない。
(記 守田)

いまさか、お下安な話で恐縮だが、TENTの中で
皆が一番うれしそうにする会話は、排せつの問題で
あろう。なにせ冬山では、そのタイミングが人生すらも
左右しかねない。上旬の果てには「おれはもう1週
間たの、「〇〇はすごい、このアリザードの中なのに、」
など、それぞれが自己の名誉をかけて雪の中へ
勇躍飛び出していく。しかし、今合宿での話題の
長右衛門は「民恵の部屋」の出現であろう。あの長碕山
の暴風雪の中、オアキスの如く現われた個室は、
そのネーミングからして我々の心を強く打った。

きっと民恵はたくましく、心優しい女性に違いない。
そして、孫の代まで民恵の部屋がうけつがれるであ
らう事を祈念する。

P.S. 彼女がこの迷文を読んでK太君と別れても、それは
神のおぼしめしである。(匿名) 26

12月29日 AM 4:45. エッセン營だ、たのいで目を覚まし
エッセンの準備を始める。なんとなく、朝のせいだ、テントの
中が狭いように感じた。吹き出したを閉けて見ると真
白で何も見えない。テントの入り口が雪で埋っていたの
だ。僕はテントから外に出て、埋ったナベとナベアタをさが
したがナベアタが見つからなかった。ほうがないので
エッセンを始めると雪が暖められて下へさがりテントを
押しつぶそうとしている。ボールはSの字に曲ってしま
った。僕はナベを両手でつかんで座、まいたが、背中
をテントに押され腰が痛くてほうがない。タカシさんは
「テントがつぶれるのは時間の問題だ。」などといってい
る。水谷さんが、装備テンを起こして除雪すべくテ
ントの外に出た。しばらくして、「オー、装備テンはエッ
センテンの右側かー。左側かー。」という声が聞かえ
た。何を言っているんだと思つたら、どうやら装備テンは
雪に埋ってどこにも見あたらないらしい。「ケケ、装備テ
ンはつぶれてしまったのたろうか。」などと思つた。それでそ
れ装備テンは雪の中にしっかり立っていた。「いやー、みんな
生きて戻らた。」と胸をなでお引いた。いやー、雪山は
やっぱり怖いなー。

by 下平.

ツバキ平の悲劇

今朝が必死の思いで目指してきた怒濤の日本海にフルリと背を
向け、我々は来た時と同じ道をたどり、アムキルがたむろ
する棚地へと向かっていた。我々の心はトラフと寒気団が重なった
ような寒い風が吹きぬけた。これは悲劇のヒーローと化した
我々に次なる試練が待ち受けていたのである。

昭和62年1月3日早朝、私は、異常な不快感に目覚めた。
おこしたこと、これは何回かあることなので別に珍らしく
ないが、この日の朝は違っていた。前日一生懸命乾かし、
シユアがバットリと体にくっついていたのである。これは一瞬と飛
び起きたらとテントの中で雨が降っているのではなか。雪が

ハンパな水漬がたり。ポーペンといる私も臍物シラフの中からは野が笑っていた。愚かにも彼はシラフカバーをしましたのだ。朝メシができた。山盛りの天気だ。みじみやけがみに食っている。森さんは「オウは江戸子トヨムとわいのわからぬことと言いつつからカッツンカッツン食っている。そして冬山では絶対便うまいとザツの底に封印してあったカッパを取り出し、無言で着る。

ツバヤの雨は冷たい。雨で100倍重くなる。キスリングとエヤツとが「我々はカズの中の雪倉岳へと向った。この後、さらに困難な事態が持ち受けるとたぬが予想したであろうの…… みじやうが感じていたに違いない。

(記 守田)

いままでか、お下安な話で恐縮だが、TENTの中で皆が一番うれしそうにする会話は、排せつの問題であろう。なにせ冬山では、そのタイミングが人生すらも左右しかねない。上旬の果てには「おれはもう1週間だの、「〇〇はすごい、このアリザードの中なのに。」など、それぞれが自己の名誉をかけて雪の中へ勇躍飛び出していく。しかし、今合宿での話題の最右翼は「民恵の部屋」の出現であろう。あの長碕山の暴風雪の中、オアオスの如く現われた個室は、そのネーミングからして我々の心を強く打った。

きっと民恵はたくましく、心優しい女性に違いない。そして、孫の代まで民恵の部屋がうけつがれるであろう事を祈念する。

P.S. 彼女がこの迷文を読んでK太君と別れてもそれは神のおぼしめしである。(匿名) 26

3. 個人山行

・ 八ッ岳

Member 上三野, 中村(2)

12月13日

15:45

赤岳磁泉 (T.S)

12月14日

6:30

下ノ倉

7:15

大同心基部

9:00

シヨウコ沢 下1

11:00

大同心線

12:15

下ノ倉

15:00

美濃戸

予定では小同心バシドール→大同心が天気不都合が
たのでシヨウコ沢を遊ぶ事にして大同心線を
引き帰した。

王製出大 石野崎ル一ト

大(一) L 中島(02) 森

記録) 1) 5/13 菅の台 (02)
5/15 菅の台 (02)
5/16 菅の台 (02)
5/17 菅の台 (02)
5/18 菅の台 (02)
5/19 菅の台 (02)
5/20 菅の台 (02)
5/21 菅の台 (02)
5/22 菅の台 (02)
5/23 菅の台 (02)
5/24 菅の台 (02)
5/25 菅の台 (02)
5/26 菅の台 (02)
5/27 菅の台 (02)
5/28 菅の台 (02)
5/29 菅の台 (02)
5/30 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02)

5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02)

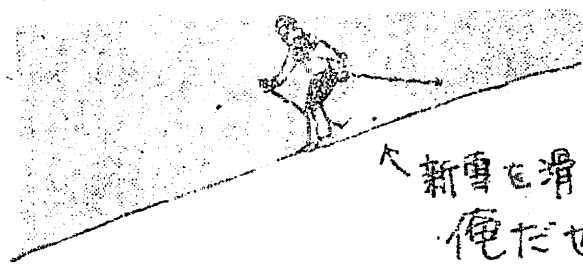
冬期の管絃は初めにたのび樂州に上り大沢城の管絃は
残念の冬管絃の時ほど普段多(防暴是時)の人だ
5/31 菅の台 (02) 菅の台 (02) 羽毛版を打つとき
(教)

編集後記

早いものでもう1年が終ろうとしている。もうそろそろ記録の編集をすることもなくなる頃だ。私が1年から2年になるに従って、ボールペン原紙からファックスへと印刷技術が変化して、表紙なども仕上がりが良くなってきている。しかし、入稿する原稿が、編集の問題を考えないものも、まだまだ見られる。

表紙も各人の荒々しい変ぼうをとった。まさに、芸術表現の場といっても良い。イラストなどでは、硬軟描きわけや、個人の趣味の延長や、New Waveでは、不気味な表現の似顔などなどである。また、当会では、極めて特徴的な、コピーを全面にうつらせたものも秀逸である！私は、今回しぶめの表紙できめて、大たんにもスクリーンを使っちゃいました。どんなものでしょうか！うまくすり上がってほしいと思います。墨ベタと、自ヌキだけでなく淡い絶が出るでしょうか。来年度は、ワープロを導入しなさいと一方的に通達しておこう。そうすりゃ大変身間違いないよ。

どーして編集後記が長いのか？
そりゃおメー、ページがあまた
んだよ。NO.81



↑新雪を滑っているのは
俺だぜ！！

1987. SAC

信州大学山岳会

冬山合宿報告書

(1987.2.7) 発行

松本支部会

7390 1000部組